

なぜ□はより□くのを、また、□□□□な□かを□い□めるだろうか□

カバラの□にも□□な□□が□□されている。

「なぜ、より□□な□を□□したいと□するのだろうか□

□□□は□□も□まれ□わることで□□に□□されてきた。□□は、□□だけを□める□□に□かったが、そこから□□、□、□□を□め、□に□、□□、□□、□□を□□するようになった。」

□□の□□で□は、□、□□、□、□□のみを□める。どんなに□ざされた□□でも、この□□は□たされるまで□□するのだ。□□□□□□によって□□される□、□□、□□への□□は□の□□で□れる。

その□に□まれるのが、□□に□する□□である。□□は□□の□□を□り、そのルーツを□ろうとすることで□□した。しかし、この□□で□□□□はまだ、□□□□の□□においてのみ□□する。□の□□になって□は□めて、□□がどこから□て、□□□□なのかという□□□□な□の□□について□□することになる。しかも、この□□は□□する□を□わせ□□させることになる。

□□とは□□、□□□□□□である。あらゆる□□は□を□れば□ら□いたものであり、それを□たそうと□□する。

この□□がプレッシャーとなって□□にく□し□かり、□□、□□□□の□てを□□することになるのだ。□□□□においてエゴイズムの□□は、□□には□が□□するの□か□という□□□□である。□い□えれば、□□□□の□がどこにあり、それがどのように□□するかという□□である。□□の□□とは“□□”でもある。

□つの□□から□の□□に□□する□には、□にある□の□□を□う。ただ□□した□□□□であれば□なく□やかに□□できることもある。しかし、いずれにせよ、□び□たな□□が□まれ、また□かが□りないと□じ□めるのだ。

□か□しいことを□□したくなり、その□□を□たそうと□み、□じことをいつまでも□り□す□になる。□い□えれば、□に□たな□□、□□を□い□めている□になる。□□はこの□□に□まれ、□き、そして□ぬその□まで□くなき□□を□たすのに□□だ。□□、いくつもの□□を□り□し、□□に□されたのが、□□の□□を□い、□の□□を□ろうとする□□なのである。

この□□□□な□□が□まれると、□の□ての□が□□で□□□□なものに□えてくる。この□□に□すると□は□□になり、□□□□にも□□□□にも□□□□に□まれ、□えどんな□□を□いてもこの□で□□を□に□れることは□□ないと□うようになる。そして、□□の□□を□□い、□□□□な□かが□□していると□じるようになる。

「□が□きる□□は□□」 「なぜ□は□□するのだろうか□」このような□□が□じた□、□はカバラに□かれるのだ。